

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
北海道ハイテクノロジー専門学校		昭和62年12月4日		佐藤 俊		〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12番1 (電話) 0123-36-8119																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人滋慶学園		昭和63年1月5日		浮舟 邦彦		〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311																	
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																
工業	工業専門課程		宇宙・ロボット学科			○																	
学科の目的	次のような人材を輩出することを本学科の目的とする。(ディプロマポリシー) 近未来(DX)の日本産業界の背景・構造に鑑みて新しい価値を生み出す技術者を養成する。 それにより、豊かで安心、安全な社会づくりに貢献する。																						
認定年月日																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3年	昼間	90単位	12単位	84単位																			
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
90人		23	1	3	14	17																	
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断し、GPAを用いて算出する。GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入する。 【GPAを算出する計算式】 GPA＝[(該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP)の合計]÷[当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計]																		
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月下旬～8月下旬 ■冬季:12月下旬～1月上旬 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	選択必修科目・自由選択科目のどれかを必ず選択し、履修することが、進級・卒業要件となり、進級・卒業認定は判定会議にて学校長が行う。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 面談・保護者との連携			課外活動	■課外活動の種類 ・産業用ロボットの展示等の作業に関する特別教育(第36条第31号)の課程修了 ・2024スベースブローコンテスト3位入賞 ・恵庭市産業祭陸上ドローン操作体験ブース出展 ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) IT企業および一般企業 ■就職指導内容 履歴書指導・面接練習等 ■卒業者数 : 4 人 ■就職希望者数 : 4 人 ■就職者数 : 4 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0 % ■その他 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報) <table><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td>産業用ロボット特別教育</td><td>③</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※種類の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	産業用ロボット特別教育	③	13	13								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
産業用ロボット特別教育	③	13	13																				
中途退学の現状	■中途退学者 3名 令和6年3月31日時点において、在学者25名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更・療養・心身的要因 ■中退防止・中退者支援のための取組 精神疾患・友人関係・学習意欲低下等により欠席が多い学生には担任が本人・保護者・寮などに連絡をとり多面的にサポートしている。また必要があれば本校スクールカウンセラーにつき面談を実施している。			■中退率 12 %																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ○兄弟姉妹・保護者特待生制度 ○単位減免制度 ○卒業生減免制度 ○留学生特待減免制度 ○公務員特待減免制度 ○跡取り減免制度 ○Wライセンス減免制度 ○特待生制度 ○大学入試共通テスト受験者特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	https://www.hht.ac.jp/departmen/itmedia/																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針			
企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的 to 実施することを目的とする。			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け			
教育課程編成委員会は、教育課程の編成において企業・業界団体の意見を活かし、IT関連教育に必要となる最新のハードウェアおよびソフトウェア動向などの知識・技術を反映するための連絡体制を行う機関として活動する。委員会において、職業教育の水準の維持向上を図り、実践的な職業人教育を行うために、教育課程の改善および改定を定期的 to 実施する。			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
名 前	所 属	任期	種別
覺張 千万	株式会社ロボットシステムズ	2024年9月1日～ 2025年8月31日	③
松本 淳一	株式会社トータルデザインサービス	2023年9月1日～ 2025年8月31日	③
早坂 正利	北海道ハイテクノロジー専門学校 宇宙・ロボット学科 教務部長	2023年9月1日～ 2025年8月31日	教育課程編成 責任者
渥美 良和	北海道ハイテクノロジー専門学校 宇宙・ロボット学科 学科長	2023年9月1日～ 2025年8月31日	教育課程編成 責任者
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期			
年間開催数:2回 開催時期:7月及び2月			
(開催日時)			
令和4年8月 北海道ハイテクノロジー専門学校			
令和5年2月 北海道ハイテクノロジー専門学校			
令和6年7月 北海道ハイテクノロジー専門学校			
令和7年2月 北海道ハイテクノロジー専門学校(予定)			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況			
意見活用内容 2024年後期 1. 2年生を対象に業界説明会(企業)実施予定。産学連携センターが企業と内容を検討。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針			
モノづくりエンジニアを育成する上で、ロケット・ロボット(探査機)・ドローンを教材に思考を深める学びを提供する。制作段階で実験と課題を繰り返し、PDCの重要性を学ぶ機会を提供するために、情報交換を行い、最も適したカリキュラムを構築するため検討を行う。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容			
①世界有数の実験施設の活用(ロケット発射台、微小重力実験塔など)			
②高度20～150mからの制作機体投下実験サポート			
③スペースブローブコンテストサポート			
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等	
電気・電子工学Ⅰ	直流回路を用いて回路計算に必要な知識や交流回路の回路素子である抵抗、コイル、コンデンサについて説明することができるようになる。	株式会社植松電機	
電気・電子工学Ⅱ	IoT時代に重要な各種のセンサー、マイクロコンピュータとその関連技術についての基礎知識を説明できるようになる。	株式会社植松電機	
モノづくりⅠ (探査機・ロケット基礎)	モノづくりの基礎技術を身に着け、課題に取り組むことで更に技術力を高めることができる。	株式会社植松電機	
モノづくりⅡ (探査機・ロケット基礎)	モノづくりの基礎技術を身に着け、課題に取り組むことで更に技術力を高めることができる。	株式会社植松電機	

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
学園および学校が実施する担任研修、研究授業、教務部長会議などを通じて教員としての教授力向上を図る。専門スキルに関しては、関連業界が主催するソリューション、セミナー、研修会などに参加し、最新状況の収集を行い、学生指導・学生支援のスキルアップを図る。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
アーク溶接特別教育講習(5月)	
②指導力の修得・向上のための研修等	
・学園グループ内 教務リーダー研修(11月) ・学園グループ内 担任研修(2月) ・学園グループ内 講師研修会(2月) ・学園グループ内 学科長研修(10月) ・学園グループ内 OJT研修(9月) ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会「職業実践専門課程」に係る研修(7月・12月)	
(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
小型車両系建設機械運転特別教育講習	
②指導力の修得・向上のための研修等	
・学園グループ内 教務リーダー研修(11月) ・学園グループ内 担任研修(2月) ・学園グループ内 講師研修会(2月) ・学園グループ内 学科長研修(10月) ・学園グループ内 OJT研修(9月) ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会「職業実践専門課程」に係る研修(7月・12月)	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針	
日々の学校運営については学内の学校長、教務部長、部門長の会議である「運営会議(定例会毎月2回)」にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行っている。また、学校関係者評価委員会で得られた外部評価における意見や提案はその内容を検討し12月には改善計画を含めた事業計画を策定している。自己点検自己評価については、年度修了後に「計画」「実践」「評価」の一連の評価を行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し自己評価点検を実施し学校関係者評価との連動により学校運営に活用している。一方教育活動については教務部長ならびに学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて問題の検討や計画の修正等を検討し、年2回の教育課程編成委員会への報告により毎年次年度カリキュラムへ反映し日々の授業運営の改善に取り組んでいる。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念・目的・育人人材像は定められているか ・学校の特色は何か ・学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	・運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか ・運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか ・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか ・意思決定システムは確立されているか ・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	・各学科の教育目標、育人人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか ・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか ・カリキュラムは体系的に編成されているか ・学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけをされているか ・キャリア教育の視点にたったカリキュラムや教育方法などが実施されているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教員の専門性を向上させる研修を行っているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制はあるか

(4) 学修成果	・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図れているか ・資格取得率の向上が図れているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生のの社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	・就職に関する体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学外実習、インターンシップ、海外研修などについて十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか ・入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備は出来ているか
(9) 法令等の遵守	・法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関しその保護のための対策が取られているか ・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己点検自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11) 国際交流	・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価は年に1度実施している学校関係者評価委員会により各委員の意見を反映し学校運営に活かすべく方針を決定している。

業界・地域の新しい動きをリードする産官学協同教育を柱とした教育環境の提供を推し進める。

1. 早期から専門性に触れられる(アーリーエクスポージャー)カリキュラム構成にする。
2. 模擬患者演習、業界との共同研究をカリキュラムに取り入れることにより、主体的、対話的で深い学び(アクティブラーニング)を推進する。
3. 創造力を育む異分野交流学习の仕組みを創り、実行する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
佐伯 聡	株式会社 フロンティアサイエンス	2024/4～2026/3	卒業生代表
鈴木 弘美	在校生保護者	2024/4～2026/3	保護者代表
大場 真哉	帯広大谷高等学校	2024/4～2026/3	高等学校
早坂 貴敏	北海道議会議員	2024/4～2026/3	地域関係者
上見 崇	斜里地区消防組合消防本部	2024/4～2026/3	業界関係者
白川 努	株式会社 サングリント太陽園	2024/4～2026/3	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)
URL: <https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>
公表時期: 毎年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	(11)その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
情報提供はHPにて公開をしている

自己点検自己評価による
<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180731.pdf>

別紙様式4
<https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>

法人決算書及び監査報告書
https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180629_01.pdf
https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180629_02.pdf

学校関係者評価委員会報告書
<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm2018071901.pdf>

学校関係者評価結果及び改善方策
<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm2018022302.pdf>

授業科目等の概要

(工業専門課程 宇宙・ロボット学科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			スタートアップⅠ	1st植松キャンプを通じて、1年次の目標を設定し、それを実現するための行動開始（スタートアップ）ができるようになる。	1 前	60	2		○		○	○	○		○
○			スタートアップⅡ	2nd植松キャンプを通じて、1年次の総括と2年次の目標を設定し、それを実現するための行動開始（スタートアップ）ができるようになる。	2 前	60	2		○		○	○	○		○
○			スタートアップⅢ	3rd植松キャンプを通じて、2年次の総括と3年次の目標を設定し、それを実現するための行動開始（スタートアップ）ができるようになる。	3 前	30	1		○		○	○	○		○
○			セルフ マネジメントⅠ	自分自身を理解して、持っている力を最大限に生かすには、どうしたらいいの か考え、行動する力を身につけることができる。	1 前	30	2	○			○	○	○		○
○			セルフ マネジメントⅡ	自分自身を理解して、持っている力を最大限に生かすには、どうしたらいいの か考え、行動する力を身につけることができる。	1 後	30	2	○			○	○	○		○
○			課題探求	前期課題（制作物・実証実験）を 更にブラッシュアップして性能を向上する 事ができるようになる。	1 後	30	1		○		○	○	○		○
○			選択講座	デザイン・プログラム・ドローンなどから 選択して学ぶことで自身の知見を広げ、付加 価値を身につけることができるようになる。	1 後	60	2		○		○	○	○		○
○			企業研究Ⅰ	企業の研究（見学・インターンシップ）を することで具体的なイメージを持って 就職活動をすることができるようになる。	2 後	30	1		○		○	○	○		○
○			企業研究Ⅱ	企業の研究（見学・インターンシップ）を することで具体的なイメージを持って 就職活動をすることができるようになる。	3 前	30	1		○		○	○	○		○
○			ICT基礎	一般的なIT用語およびビジネス用語を理解し説明できるようになる。また、IT パスポート試験の合格を目指す。	1 前	60	4	○			○			○	
○			プログラミング基礎	C言語の基礎知識や基礎技能を習得し、基礎プログラミングができるようになる。	1 前	60	2		○		○			○	
○			プログラミング応用	C言語の基礎知識や基礎技能を習得し、応用プログラミングができるようになる。	1 後	60	2		○		○			○	
○			AIプログラミング	C言語の応用技能を活用して、教材などを使い具体的に制御プログラムを書く ことができるようになる。	2 前	60	2		○		○			○	
○			資格対策Ⅰ	企業が目標提示した資格や検定に自主学習を通して学習習慣をより高めること ができるようになる。また、取得を目指す。 ・危険物乙4種 ・ITパスポート ・火薬運用	2 後	30	2	○			○			○	
○			資格対策Ⅱ	・ロボットSI検定 など	3 前	30	2	○			○			○	
○			電気・電子工学Ⅰ	直流回路を用いて回路計算に必要な知識や交流回路の回路素子である抵抗、コ イル、コンデンサについて説明することができるようになる。	1 前	60	2		○		○	○		○	○
○			電気・電子工学Ⅱ	IoT時代に重要な各種のセンサー、マイクロコンピュータとその関連技術につ いての基礎知識を説明できるようになる。	1 後	60	2		○		○	○		○	○

○			CAD/CAM演習Ⅰ	モノづくりに欠かせないCAD/CAMシステムの必要性を理解し、CAD/CAMソフトウェアの基本機能や基本操作ができるようになる。	1 前	30	1		○		○				○	○	
○			CAD/CAM演習Ⅱ	モノづくりに欠かせないCAD/CAMシステムの必要性を理解し、CAD/CAMソフトウェアの応用機能や応用操作ができるようになる。	1 後	30	1		○		○					○	○
○			CAD/CAM演習Ⅲ	CAD/CAMソフトウェアの応用機能や操作を理解し、より実践的な操作ができるようになる。	2 前	30	1		○		○					○	○
○			CAD/CAM演習Ⅳ	CAD/CAMソフトウェアの応用機能や操作を理解し、より実践的な操作ができるようになる。	2 後	30	1		○		○					○	○
○			モノづくりⅠ (探査機・ロケット)	モノづくりの基礎技術を身に着け、課題に取り組むことで更に技術力を高めることができる。	1 前	90	3		○		○	○				○	○
○			モノづくりⅡ (探査機・ロケット)	モノづくりの基礎技能を習得し、課題に取り組むことで更に技術を自身の能力として定着させることができる。	1 後	90	3		○		○	○				○	○
○			モノづくりⅢ (探査機・ロケット)	モノづくりの応用技術を身に着け、課題に取り組むことで更に技術力を高めることができる。	2 前	120	4		○		○	○				○	○
○			モノづくりⅣ (探査機・ロケット)	モノづくりの応用技能を習得し、課題に取り組むことで更に技術を自身の能力として定着させることができる。	2 後	120	4		○		○	○				○	○
○			宇宙工学Ⅰ	航空宇宙工学の分野と様々な専門領域とのかかわりについて理解を知ることができる。	1 前	30	1		○		○	○				○	○
○			宇宙工学Ⅱ	航空宇宙工学の分野と様々な専門領域とのかかわりについての理解を更に深めることができる。	1 後	30	1		○		○	○				○	○
○			宇宙工学Ⅲ	航空機・ロケット・人工衛生などの設計、製造、運用に関する基本知識を身に着けることができる。	2 前	30	1		○		○	○				○	○
○			宇宙工学Ⅳ	航空機・ロケット・人工衛生などの設計、製造、運用に関する応用知識を身に着けることができる。	2 後	30	1		○		○	○				○	○
○			宇宙工学Ⅴ	宇宙工学で習得した知識を通して、航空宇宙産業ビジネスにどのように活用できるかを提案できるようになる。	3 前	30	1		○		○	○				○	○
○			ロボット工学Ⅰ (産業用ロボット)	産業用ロボットの様々な用途を理解する事が出来るとともに操作（プログラム）技術を身につける事が出来る。	1 前	30	1		○		○	○				○	○
○			ロボット工学Ⅱ (産業用ロボット)	産業用ロボットの様々な用途を理解する事が出来るとともに操作（プログラム）技術を身につける事が出来る。	1 後	30	1		○		○	○				○	○
○			ロボット工学Ⅲ (産業用ロボット)	産業用ロボットの様々な案件をテーマに操作（プログラム）技術を高める事が出来る。	2 前	30	1		○		○	○				○	○
○			ロボット工学Ⅳ (産業用ロボット)	産業用ロボットの様々な案件をテーマに操作（プログラム）技術を高める事が出来る。	2 後	30	1		○		○	○				○	○
○			ロボット工学Ⅴ (産業用ロボット)	産業用ロボットの様々な案件をテーマに操作（プログラム）技能を高める事が出来る。	3 前	30	1		○		○	○				○	○
○			進級研究Ⅰ	学んだ基礎知識・技術を生かし、進級研究テーマを決め、企画・計画・実行・検証をする。それにより知識・技術を深める事が更にある。	2 前	120	4		○		○	○	○	○	○	○	○
○			進級研究Ⅱ	進級研究テーマを遂行する過程で、計画・実行・選択・決断、課題解決の力を身に着けることができる。	2 後	150	5		○		○	○	○	○	○	○	○
○			国内研修Ⅰ	日本の業界の最新動向を知り、見聞を広め、視野を広げることができる。	1 後	30	1		○		○	○	○				○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

